

エルニーニョ現象発生時に現れやすい秋（9月～11月）の天候の特徴

エルニーニョ現象発生時に現れやすい日本及び世界の天候の特徴は、以下の通りです(1979年～2008年の30年間のデータをもとにした統計調査による)。

日本の秋（9月～11月）の天候（図1）：

平均気温は、北日本と東日本で高い傾向があります。一方、沖縄・奄美では低い傾向があります。降水量は、西日本で少ない傾向があります。一方、北日本太平洋側では多い傾向があります。日照時間は、東日本日本海側と西日本日本海側で多い傾向があります。

ただし、9月のみで統計をとると、秋（9月～11月）とは異なる特徴が見られます。平均気温は、東日本、西日本、および沖縄・奄美で低い傾向となります。降水量は、北日本、東日本日本海側、および沖縄・奄美で少ない傾向となります。日照時間は、北日本で多い傾向となり、東日本太平洋側では少ない傾向となります。

なお、今後の天候の見通しについては、最新の季節予報を参照してください。

世界の9月～11月（北半球の秋）の天候（図2）：

気温は、インド南部、ヨーロッパ西部、オーストラリア南部で高温傾向が見られます。中央～東シベリア南部、南米南部で低温傾向が見られます。

降水量は、フランス周辺で多雨傾向が見られます。華北周辺、ヨーロッパ東部、オーストラリア東部周辺で少雨傾向が見られます。

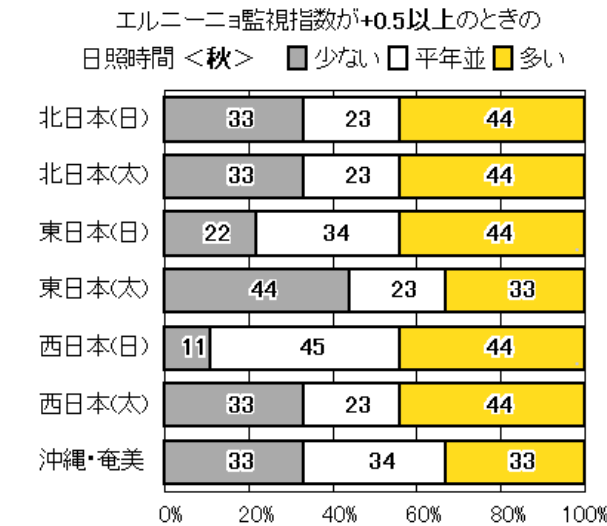
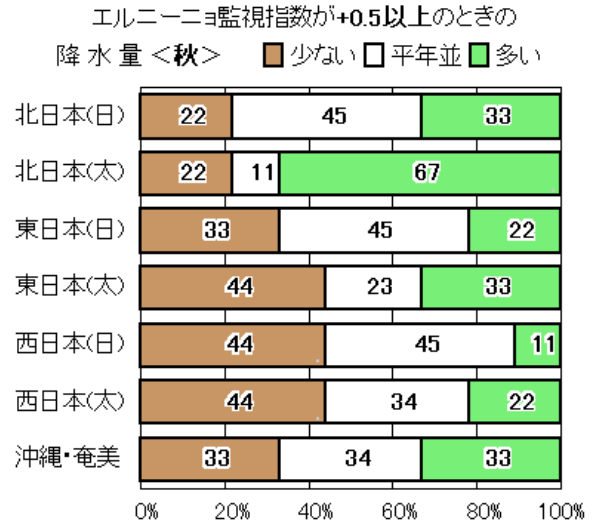
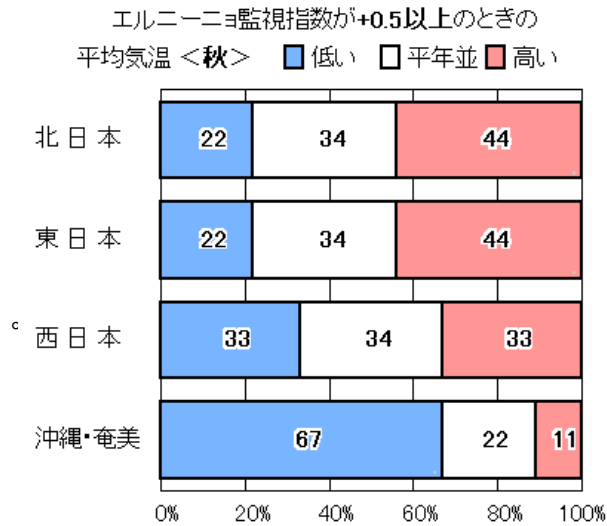


図1 エルニーニョ現象発生時の秋（9～11月）の天候の特徴
左上：気温、右上：降水量、左下：日照時間
棒グラフ上の数字は出現率を示す。気温については長期的な変化傾向を除いています。

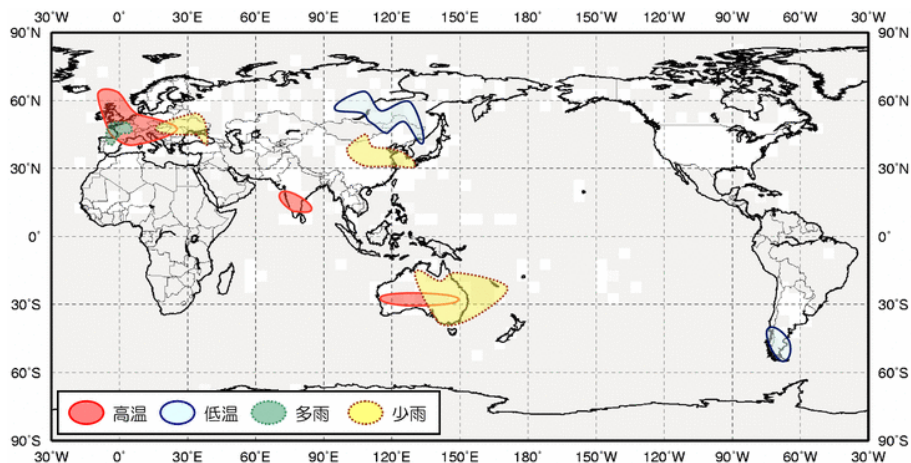


図2 エルニーニョ現象発生時の9～11月（北半球の秋）の天候の特徴

エルニーニョ現象発生年とエルニーニョ現象・ラニーニャ現象ともが発生していない年とで比較し、検定の結果、危険率10%未満で有意な差のあった地域をまとめて分布図に示しています。また、灰色は観測データのない領域、薄い灰色は気温もしくは降水量のいずれかの観測データのない領域を表します。気温については長期的な変化傾向を除いています。